

2011 11 あけぼの

「いのち」を観つめて—— 死別を超えて ともにある

特集 対談 亡き人との絆を深め、ともに今を生き抜いていく 矢代朝子×高 史明
命を輝かすために—日本社会へのチャレンジ 森 一弘 母を亡くして細川貂々
「見えないけど……愛しているママがいることを」—ホスピスの現場から 東日本大震災を思う—下稲葉康之

連載 “ことばの杜”への小道 Part II / 来年度“読書科”を開始する—“読書”にも力を入れ、活気に
東京・江戸川区のこころみ 満ちている第六郡西小学校で お相手・伊藤辰久氏、青木直子氏 / 山根基世
ミステリアスな日々 / 亡き友との語らい 木崎さと子
活憲とヒューマンライツ (人権) / 市民の力で「核」からの脱却を 伊藤千尋
光と風のおくりもの / 日本への視線 三浦暁子
キリストの足跡 / 取りつぎの祈り 百瀬文晃





青木直子

あおき・なおこ
江戸川区立第六葛西小学校教員

伊藤辰久

いとう・たつひさ
江戸川区立第六葛西小学校校長

山根基世

やまね・もとよ
NHK退職後たちあげた、有限責任事業組合「ことばの杜」代表。著書『ことばで「私」を育てる』『「ことば」ほどおいしいものはない』ほか。

「ことばの杜」への小道

Part II

第11回



来年度“読書科”を開始する東京・江戸川区のこころみ

——“読書”にも力を入れ、活気に満ちている第六葛西小学校で

「教科」にはしない「読書科」

山根 公開授業を拜見しましたが、保護者の方がたゞさんいらして、非常に活気を感じました。土曜日の公開授業というのは？

伊藤 年三回ですが、活気があるのは、お母さん、お父さんが非常に協力的で、ふた月に一回、子どもたちがかわるイベントをしています。たとえば今度の土曜日はプールに金魚をいれて釣り堀大会、十二月には焼きいも大会、一月には餅つき大会。六月と二月は校庭で遊ぼう、四月には新しいお父さん、お母さんを歓迎する会……いろいろやってくれます。

山根 やつてくれるというのは、PTA主催で会長さんがリーダーシップをとってらっしゃる、ということですか？

伊藤 そうです。十五年前に、すごく強力なお父さんの会ができました。さきほど申し上げた行事のほとんどをやっています。夏休みに入る前に一泊二日で校庭でキャンプをします。子どもは三百人ぐらいで大人が二百人ぐらいの参加です。校庭にテント村ができますよ。(笑い)

山根 この校庭は土ですから恵まれていますね、広いです。でもすごいですねえ。このあたりの土地柄でしょうか。

伊藤 学域は地元の方も多いのですが、むしろ転勤族の方が多いですね。会社人間であると同時に、地域なり子どもたちのために力を発揮したいという思いの強い方々が多くて。あとの話題になる読

書料にもつながりますが、読み聞かせもやっています。お母さんたちが、ほぼ毎週一回学校に来て、登録していただいている方が百人以上います。外国の学校とも姉妹交流しています。

山根 以前にネパールの市長さんがいらしたのですよね。

伊藤 地域の方が支えてくれるので、もう十七年目になりますが、一年おきくらいにこちらから行ったたり招待したり。毎年十万円、子どもとPTAで募金して送っています。十万円はネパールの教員年収に匹敵するそうです。というように、すべて地域を含めてPTAが中心になりながら、支えてくれている。これが活気になっているのだらうと思います。

山根 子どもたちが元気で、この残暑厳しい中で運動場を駆け回り回って歓声をあげて遊んでいる。元気な子どもたちの姿、歓声をしばらく聞いてないな、と懐かしい気がしました。(笑い)教育の現場を見ていて、地域全体で育てる気力を持たないと、もう今は教育が成り立たない状況だと思いのですが、ここはすくく望ましい、希望のカタチになっていますね。

伊藤 毎年のPTAの方がそういうふうにしようにとして、それで支えられています。

山根 江戸川区が読書料という教材を設けようと考えたいきさつほどのようなことですか？

伊藤 教育委員会が平成二十一年ごろに打ち出しましたね。

山根 正式には来年二〇二二年にスタートですか？ 去年と今年は準備期間で、読書料を開設す

るにあたって具体的には何から始めてらっしゃるのでしょうか。

伊藤 六年ほど前から学校の一つの柱に「読書」をすすめています。こちらの青木が読書料設置のための推進委員になって区に通っています。各学校独自に進めていることを寄せ集めて。

山根 すでにそういう学校の素地があつて。

伊藤 そのメンバーが中心になりながら、実際に教育委員会が音頭を取っています。計画や時間数や評価などでそれこそもめて、教材にするのか……と。

青木 評価を出さないということで、教材にはしないことになりました。

伊藤 紆余曲折がありまして、今各学校長が同意書を提出しているところです。

山根 子どもに本を読ませることにだれも反対はしないですが、実現して実際にやってみるとえでの難しさがいろいろあると思います。どういうところに難しさを感じてらっしゃいますか。

青木 小学校と中学校では問題が違いますが、小学校は時間のとり方で、余剰時間を上手に使える学校もあれば、システムが違うので難しいこともあります。読書料の時間を確保するのに他の教科とかみ合わせが難しいという話も出ています。総合の時間に読書料の調べの活動をするとどこまで取つていいのか、どこまで国語の読書で取るのか、とか、例えば調べるまでの本探しまでが読書で、その先の調べで書いたりするのは総合か、とか。そのへんを話し合っています。

山根 読書料が教材でないとすると、つまりは

読書の時間という言い方になるのですか。

青木 読書料という名前です。スタートしたので、今残しているのですが、そうすると教材のような気がするというところで……。

山根 教材であるか、ないかで何が違ってくるのですか？

青木 教材になりますと評価を出さなければいけないので、最後に通信簿で所見なり、三段階評価を出さなくてはなりません。評価を出さなければ、自由にもっとやらせてあげられるけど、評価を出すと個人差が出てきますし、評価もしづらい。逆に本嫌いが出てしまいかもしれません。いろいろ話し合いを重ねた上で最終的に評価しなくなったので、皆安心したところです。

山根 具体的には特別に読書料の先生がいらっしやるのでしょうか？

伊藤 担任がやります。

山根 そうすると先生は今までも相当お忙しいと伺っておりますが、さらに本を選び、ご自身も相当読み込まなければならぬ。かなりの負担になりますか。

青木 日々子どもたちをいろいろな本に出会わせるために、自分たちも読んでいかなければと思つていますが、始まつたらそういう時間ももつと必要になってくると思います。

山根 今までの国語の授業と読書料の授業はどこをどう変えるのでしょうか？

青木 国語の中で今まで読書料的な内容もありました。ただ今回は読書料なので、年間最初の年は二十五時間、二年目が三十時間、三年目で三十

五時間と流れて増やしていき、国語だけではなくいろいろな教科で読書料をつなげることができると思っているので検討委員会のほうで考えています。国語ではブックトーク、アニメーションなどいろいろなありますが、だれでも使える資料のようなものを作っているところで、それを参考に授業に入れていくことになると思います。

山根 算数の時間の一部が読書料の授業であったり、というかたちにもなるのですか。

伊藤 それはいいです。読書料は学習指導要領の規定がないので、引き続き子どもたちが本を読んだり、それを通じて心を育てたりできるような環境を整えていけます。

山根 それぞれの学校や先生の個性が生かせるのかもしれないですね。

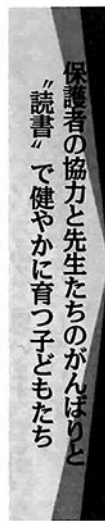
伊藤 そういう意味で言うと小学校はまだまだ幅があります。余剰時間があるので、その時間を担任の裁量で振り分けることができます。年間三十五時間を読書に振り分けることもできますし、朝の十分ぐらいの時間を週三回やれば三十分、あるいは十五分やれば四十五分になりますから一時間。朝読を一年間通じると、相当な時間が確保できる。必ずしも通常の一時間目から五時間目の中で一時間取らなくてもできます。

山根 ただ朝読時間を割り当てるのでしたら、今までと何も変わらないことになりませんか？



青木 それだけではいけないということで、調べや読みをきちんと。ただ読むだけでは力がつかず、読んだ後の活動が大事になってくるということとで、書く、発表しあう、伝え合う……いろいろなかたちがあると思いますが、その時間を確保していくのが、読書料になると思います。

山根 そうすると今までの授業の中でやっているのとは違う、読み・書き・調べというふうなことまで取り込んだ読書授業というふうになってくるわけですね。



伊藤 うちの学校では二つの読書をしています。一つは読む読書。もう一つは調べる読書。自分やグループでテーマを決めて図書館の文献を読みこなし、一つのかたちを作り、それを発表する。車の両輪のように進めると社会科でも算数でも総合でもどこでも活用できますから。

別の観点からですが、全国学力テスト、東京都の学力テストで、読書が好き、あるいは読書活動を中心に行っている学校の子どもの理解力は、やはり高いですね。

山根 読書と学力はかなりな相関係数だそうですね。

伊藤 うちの場合も、学力を高めるという意味で、国語、算数の勉強、漢字ばかりではなく、もともとベース的な意味で読書の力を借りようと六年ほど前から総合で読書に力を入れました。それまで、学力テストの評価も非常に厳しかったので

すが、六年間地道に積み重ねてきたら、保護者の安心できる学校になりました。

山根 学力の向上が見られるのですか。

伊藤 正直に言って、顕著に見られません。うちの学校だけの話かも知れませんが、四、五年前は区の平均点を下がるぐらいでしたが、今は都の平均点を越えるところに来ています。朝読だけでなく、調べる読書をやったり、「暇な時間に好きな読書」と名付けていますが、自分の授業の中で課題が終わった子どもは自分の本を持ってきて読む。そういうことを積み重ねてきたのが、今につながっています。イコールではなくても、それがベースになっていると思います。

山根 若者たちが思いがけない事件を引き起こすのも、背景としては自分の気持ちを言葉で表現できなかったり、周囲の人と言葉でいい人間関係を築けない。言葉の力が足りず精神的に不安定な状況があつて事件を引き起こすのではないかと、言葉の力をもう少しつけければ精神的にも安定するのではないかと思つていましたが、精神面だけでなく実際の学力そのものも向上させる。

伊藤 イコールとつなげると短絡的だと批判されそうですが、五、六年生になると、どこでも新しい現状が現れます。自分の子どもたちを褒めて言うわけではないのですが、子どもですから間違いをおかしたり、やんちゃなことをやったり、ほかから叱つたりすることもあります。例えば五月に運動会をしました。保護者の感想文の中に、自分の子どものことをよかったというののはどの学年でも言いますが、六年生を見ていて、自分の子



どもが大きくなったらあんな子どもになるのだと未来が見えてとでもうれしかった、こんな優しい高学年のいる学校に自分の子どもを入れることができた、とありました。六年生は一年生の看護をしますが優しくやってくれる。読書だけでなくいろいろなことが合わさってそういうことになりました。お父さん、お母さんたちがこの学校を皆応援していることも力になっていると思いますが、読書をして自分の想像力を創っていく力が出てきている。だからいざというときは力を合わせて頑張っても、いい、こつち来いよという感じで。

山根 子どもたち同士でそういう修復をしていくわけですね。読書というのは、知識もですが、いろいろな人の気持ちを想像したり読み取ったりして、そういう力もつきますね。

伊藤 今年はブッククラブの手法で読解力、想像力をもっとつけようとしています。

山根 ブッククラブとはどういう方式なんですか。

青木 一冊のお話で、読解も含めながら、そのときどんな気持ちでしたか、そのときあなただっただろうと思いますか、この話の続きは、あなただっただろう創りますか、この話、この終わり方についてですか、といろいろ考えさせます。

伊藤 答えはこうだと言わないですね。この主人公の心情はこれだよと言うと、そうでない思いをしていた子どもは、じゃ自分はためなのかと思う。どう思うでもいいから想像させて、次の段階でまた質問して、その子自身が考えていく。物語が終わったときに、さあこの物語はどう進んでいくでしょうか、自分で書きましようということも含めてありますね。

山根 できあがったお話の終わりをこれでいいですか、というのも、すごいですよ。(笑)

青木 意見、対話があつて考えを述べ合つて友達のかえに触れることができる。それを受け入れて、でも自分はこう考える。あるいは意見が変わってくる。そのへんがとても面白いですよ。

伊藤 自分の考えを作りながら考えを表現していくことにつながる手法ですね。ネパールの学校と交流しているので向こうの子どもが挨拶します。原稿なしで堂々と話します、大人がしゃべるように。アメリカの一年生の子どもが二か月体験入学したときも、お別れの挨拶をするのに、ぼくは自分で言います、と全校朝会のとときにさよならの挨拶をしました。日本の子どもは後ずさりするぐらいですが、そういう訓練が以前の教育の中ではすごく欠けていました。自分で考えを見つけ出して、自分の言葉で表現すること。

山根 教え込む教育から、本人が自分の頭で考える教育へ、と。ただ、先生としても大変負担が重いだらうと思います。先生方が手掛かりになるようなテキストも必要じゃないですか。

青木 勉強しながら作っていくとしています。

ここを押さえるなければいけないから、こういう質問をするとか。質問の仕方によって子どもの答えは全然変わってきますし。読書の好きな先生は多いですし、学年皆で探して話し合いながら頑張っています。

伊藤 リードする人がしっかりいるからできると思います。今は三代目のリーダーですが、リーダーが、六年前から先頭に立ってやってくれました。保護者の読み聞かせの人たちがどのクラスでもいる。毎週図書室を子どもたちが来たくなるような図書室に変えようという整備に二十人か三十人ぐらいの人が毎週木曜日に来てくれる。リーダーがいることがすごく大事だと思いますね。六年前、お母さんたちが、この学校は読書はどうする気であるんだと怒りをぶつけてこられました。図書室の本を開けばカビた本、ほこりだらけの本ばかり。調べ学習をしようとする二十年、三十年前の資料ばかり。図書室をどうすべきかと迫ってこれ自分たちが協力するから、とそこから始まりました。そのエネルギーはすごいものでしたね。

山根 保護者に導かれたんですね。読書料が教科でないにしても予算はついているのですか。

伊藤 要領はしていますが……。図書室に専門の司書がほしいですね。今は担任が司書を兼ねていますし、すぐわかるようにデータ化したいのでパソコンも要領しています。

山根 先生方には無限大の時間を要求されていますね。でもここが全国に先駆けたいいモデルになってほしいと思っております。